



JAPAN HANGGLIDING FEDERATION

JHFレポート

1・2月号
2002年

(社)日本ハンググライディング連盟 発行

<http://jhf.skysports.or.jp/>



大切に飛びたい。

2002年が始まる。
今年こそ
高高度飛行をする。
サーマルソアリングする。
大会で勝つ。
それぞれの目標をめざして
フライトの1本1本を大切に。
そして
何よりもセーフティフライトを。

2001パラグライディング日本選手権IN白鷹より。
シャンパンの雨を浴び、会心の笑顔のトップ3。

新年のごあいさつ

社団法人日本ハンググライディング連盟 会長 朝日 和博

大自然の中、肌身で風を感じつつ大空を飛ぶことは、人類古代よりの夢でありました。今、幸いにも現代に生きている私たちがその喜びを受けることが出来ております。この感動は未来に繋げ、将来のフライヤーに渡してやらなければなりません。そのため、現在のフライヤーが楽しく安全にフライトする事が重要であります。また、家

族や一般社会の理解をいただくことも大切であります。

2001年は事故が目立ちました。フライヤーは全て自己の責任に於いてフライトし、誰にも迷惑をかけない様にしている筈です。しかし、一人の行動は数多くの人との繋がりの中で成り立っており、決して単独ではなく、互いに影響を与え合っております。私たちに

とって一番に望まれることは事故の防止であります。安全を無くしては楽しく飛ぶという事は確保できません。

新しい年は安全の確保を最優先としながら、素晴らしいフライトを楽しむことが出来るよう、心より望んでおります。



JHFレポート 1・2月号

Contents

- P 2 パラグライディング日本選手権
- P 4 モーターパラグライディング選手権
- P 5 DHV視察調査報告
- P 6 **安全講座** 「調整」を軽く考えるな!
- P 7 冬の風は重い!?

- P 8 県連だより 山口県ハング・パラグライディング連盟
- P 9 県連ニュース
- P10 委員会の動き
- P11 理事会ダイジェスト 理事活動報告
- P12 **@sky** 空の楽しさ満載の情報ページ

2001 パラグライディング日本選手権 IN 白鷹

川地正孝、念願の日本選手権者に。

報告 藤岡 多恵

2001年のパラグライディング日本選手権が山形県白鷹山にて10月17日から21日まで開催された。
2本のタスク成立で、昨年に引き続きパラグライディング日本選手権はめでたく成立。
地元の方々の多大なる協力をいただき、パラグライダーの競技を
多くの人に見てもらおうと設置した観客席にはたくさんのギャラリー。
声援を受け93人の選手が日本一の座を目指し、山形の空に飛び立った。
今回は私、藤岡が、ダミーや大会のお手伝いをしながら見てきた5日間にわたる戦いをレポートします。

1本目は29名がゴール

公式練習日

風は強めです。それでも選手達は各々機体チェックを受けた後、テイクオフに上がっていき、明日からの本番に備えてフライトをするのでした。ここ、白鷹エリアのランディングには、すぐそばに小学校があり、この日も授業を受けている子供達や地元の方々が、選手達が次々に降りてくるのを観ていました。フライトエリアであるとはいえ、平日にこれほどたくさんのパラグライ

ダーが飛んでいるところは、なかなか見る事は無いのかもしれませんが。

大会初日

残念ながら朝から小雨がばらつくお天気です。室内での開会式となりました。式の最後に大会記念の植樹をしたあと、午後1時30分に本日の競技のキャンセルが言い渡されました。台風の進路が気にかかりますが、明日の予報は飛べそう。昨年は成立したものの、不成立が続いた日本選手権です。実行委員長の植木さん以下、スタッフ一同祈るような気持ちで予報に希望を託します。

大会2日目

成立です。朝から晴れ、10時30分頃ダミーがソアリングし始め、テイクオフゲートは10時50分にオープンになりました。11時40分スタートのレースtoゴール、30.2kmのタスクが発表され、選手達はゲートオープン直後から次々とテイクオフ。しかしスタート時間の20分ほど前にコンディションは一度しぶ~くなってしまう、扇沢選手ら20名余りの選手がランディング、リフライトする羽目に。その間にも高度を稼いでどンドンパイロンをクリアしている選手もいます。

そして13時7分に1時間27分のタイムで初ゴールを決めたのは加藤豪選手でした。次に西ヶ谷選手、川地選手と続き、計29名がゴール。結果的に全体の約三分の一の選手

がゴールというバランスの取れたタスクとなりましたが、ゴールした選手も楽々ゴール!という訳にはいかず、多くの選手が「苦勞した」ということをいっていました。

この夜は地元の温泉、パレス松風にてウェルカムパーティーが行われました。和太鼓の演奏や地元の銘菓和菓子まで出てくる盛大なパーティーでした。

リフライト続出

大会3日目

今日も晴れ、高気圧はどっぴりと日本を覆っています。昨日と違いなかなかサーマルコンディションにならず、ダミーは3本、4本と何度もテイクオフ ランディングを繰り返して、ぶっ飛んでいました。土曜日ということもあり、テイクオフに作られた観客席にはカメラ



白鷹の空にパラグライダーが満開。観客を楽しませた。



競技説明に集中する選手たち。今日はどんなタスクか。



気象条件の好転を願いつつ、静かにテイクオフを待つ。

を持った観客の方々が送迎用マイクロバスに乗ってたくさんいらしていました。

そして11時30分ようやくゲートオープン。30.6kmのタスクが発表され、大城選手をはじめ数名がスタートパイロン付近まで近づきますが、サーマルがなかなか続かないようです。12時を過ぎる頃になると、パイロンにもなっている新山平アンテナ付近でガグルができました。この時点で全体のほぼ三分の一の選手は出たようですが、なんとこの後から徐々にコンディションは渋くなり、昨日よりさらに多くの選手がリフライの憂き目に遭ってしまう事となりました。

こんな風にほぼ全員がリフライという状況にありながら、リフライをせず頑張りきった川地選手がこの日の1位に輝きました。14時のゲートクローズ間近までテイクオフに選手が残っているような状況だったうえコンディションは好転する気配も無く、もしかして今日はこのまま一人のゴールも出せないまま終わってしまうの？とっていたその時、遠くのほうで川地選手がファイナルグライドに入ったところが見えたのです！ そのままゴールまで一直線。余裕の高度でゴールを切りました。そのすぐ後には後藤選手の姿が。しかし、なんと数十メートルという距離を残して僅かにゴールラインに届かず降りてしまいました。次にゴールラインを切ったのが扇澤選手。少し離れたところに宮田選手の姿も見えますが...ん？何か低くないかな？あー高压線に阻まれて手前でランディングです...



総合1～3位。左から西ヶ谷、川地、宮田、各選手。

西ヶ谷選手がラストゴールを飾り、この日は計3名のゴール者で成立。この時点で日本選手権の成立が決定しました。

大会最終日

現在トップを走るのは川地選手。西ヶ谷選手がそれを追う形となっており、今日の成績次第では逆転優勝が可能です。しかし、渋めのコンディションの中、21kmのスピードランタスクが組まれはしたものの、殆どの選手はミニマム距離すらとる事ができませんでした。結局この日は競技キャンセルとなったため、川地選手の日本選手権優勝が決定しました。

藤岡 多恵（ふじおかたえ）

東京都出身。都内の大学3年生。以前からやってみてきたパラグライディングを始めて1年8ヶ月。ホームエリアは足尾。パラの前に入門し中断していたハングの練習を再び始めた。



女子1～3位。左から和田、神山、北、各選手。

総合 - 上位選手

1位	川地 正孝	神奈川県	1979点
2位	西ヶ谷一志	埼玉県	1938点
3位	宮田 歩	茨城県	1809点
4位	扇澤 郁	富山県	1751点
5位	後藤 雄大	埼玉県	1680点
6位	加賀山 努	静岡県	1629点
7位	柏倉 剛	山形県	1603点
8位	辻 強	茨城県	1449点
9位	中田 靖之	埼玉県	1428点
10位	伊澤 光	東京都	1419点

女子 - 上位選手

1位	神山 和子	茨城県	903点
2位	和田 有加	東京都	680点
3位	北 かおり	岡山県	650点
4位	岡部 奈奈	山形県	608点

邪心の無い飛びが勝利につながった.....川地正孝

日本選手権を戦っての感想を、優勝した川地正孝選手、女子優勝の神山和子選手、そしてノーマルライン部門優勝の伊澤光選手にお聞きしました。



川地選手

やっと念願かなって優勝！ 2日目のタスクは予定通りゴールして3位につけたけれども、3日目は生き残ることに精一杯で飛んでいること自体に必死。今までで、二を争うほど苦しいサバイバルレースだった。とにかくゴールに着こう！という、邪心の無い飛びが勝利につながったのではないかな。

大会期間中、フライヤーではない一般の観客の方が沢山テイクオフにも観に来

ていたため、気合いが入ったし、町全体が日本選手権を盛り上げており、次回もまた来てみたいと思いました。

（実は大会中スタートを切る際に警告を受けてしまった川地さん、それについては今後の成長を見ていて欲しいそうです。）



伊澤選手

1年ぶりの大会で緊張した。2本しかできなかったけれども、こればかりは天気次第なので仕方が無い。2日目は曇ってばかりのコンディションに泣かされたが、ノーマルラインだからコンペライティングライダーに負けた、というわけではない。ラインの違い自体は気持ちの問

題で、結果として現れるのはそんなに無いのではないかなと思う。

今大会はオーガナイズの雰囲気がとてもよく、毎回飛び終わったときに出てくるいも煮（山形名物！）など、競技以外にも楽しむところがあり、よかった。



神山選手

コンディションとしては、かなりトリッキーなところが有り、苦しい戦いになったけれども、初日のポイントを翌日まで持ち越すことができたのが勝った理由かな？大会スタッフの数の多さと質の高さには、実行委員長の植木さんの努力や地元の方々のご協力の跡が伺える、日本選手権としてとても質の良いものでした。

伊勢湾の絶景を眼下にモーターの楽しさを満喫。

JHFモーターパラグライディング選手権

&

モーターハンググライディング選手権プレ大会

報告 塚部 省一

10月7日(日)三重県伊勢市朝熊町の三重県営サンアリーナでJHFモーターパラグライディング選手権が開催されました。この会場で前年にスカイダイビング世界選手権が盛大に行われたのをきっかけに、伊勢市がスカイスポーツに力を入れようと決めたのもあって、第1回伊勢神宮杯モーターパラ大会も合同で行われることになりました。モーターハンググライディング選手権のプレ大会も開かれ、モーターパラ27名、モーターハング6名の選手が参加しました。

当日朝、風は穏やか……しかし予報で強風波浪注意報が出ているために、休む間もなくタスクをガンガン出してきそうな気配。午前9時開会式。10時競技スタート。

タスクは、スピードレースとターゲットランディング。3カ所の、シークレットを含むパイロンの記号を確認後、エンジンカットによるターゲットランディング(モーターハングも同じ)。

フライト中に見える伊勢湾の美しさは絶景です。このような景色の素晴らしさは、モーター大会ならではの良さを再認識させ



エンジンをカットして慎重にターゲットを狙う。

てくれます。何人かはシークレットパイロンがすぐに見つからず、タイムロスをしたようだが、ランディングはかなりの選手がポイントゲット! 6年前のプレ大会から見ると技術レベルがかなり上がっています。

ここまでの順位は、パラが宮城県東の佐藤選手、2001年ハンガリー世界戦にも出場した村田選手、そして私の順。櫻井選手は9位で女子初のひとけた入り。ハングは京都府の坂本選手に、妹尾選手、大川選手が続いています。

2本目こそ一同張り切り切りましたが、昼食前後に風が強くなりだしたので、ウェディング。3時間待ったのですが、山おろしの強風が収まらず大会終了、表彰式となってしまうました。

今回は2つの大会が同時開催なのでトロフィーやらメダル・盾・賞状など沢山授与されました。

競技終了後は役員によるパーベキュー+餃子パーティが行われ、参加者同士の交流を深めました。餃子は、本場・宇都宮餃子が多数用意されましたが、調理が間に合わないほどの大好評。

大会は盛大でしたが、役員にとってはぎりぎりまで大会会場が決まらずに、今年ほど焦った年は無かったことでしょう。本当にお疲れさまでした。

おおっ!しまったー! あまりに忙しかっ



PG優勝の佐藤選手(前列左)と入賞者。前列右が筆者。



朝日会長からHG優勝の坂本選手に賞状が授与される。

たので伊勢エビと牡蠣を食べて来るのを忘れてしまった!

来年以降の大会も食べ物うまい所にしませんか?

塚部 省一(つかべしゅういち)

東京都出身。16年前にハンググライディングを始め、現在はスカイスポーツスクール・スカイトライアルを経営。ハング、パラ、モーターハング、モーターパラで飛ぶという夢を実現した。

モーターPG選手権上位選手

[総合]

- 1位 佐藤 良雄 宮城県 3600点
- 2位 村田 福司 埼玉県 3500点
- 3位 塚部 省一 栃木県 3300点
- 4位 岡崎 秀夫 埼玉県 3100点
- 5位 一ノ宮邦雄 神奈川県 3000点
- 6位 青井 知益 栃木県 2800点
- 7位 関口 伸夫 東京都 2700点
- 8位 栗原 清正 茨城県 2600点
- 9位 櫻井 美穂 栃木県 2500点
- 10位 須藤 彰 千葉県 2400点

[女子]

- 1位 櫻井 美穂 栃木県 2500点

モーターHG選手権プレ大会入賞者

- 1位 坂本美津也 京都府 3000点
- 2位 妹尾 定一 東京都 2900点
- 3位 大川 泰右 群馬県 2800点

アンケート調査の報告

JHFは連盟事業により幅広い意見を反映するため、2001年秋に正会員(都道府県連盟)と教員を対象にアンケート調査を行いました。以下にその結果を報告します。尚、数字は10月24日現在のものです。

教員更新研修会参加の義務付け
現在、教員資格の更新手続きは各都道府県連盟に委ねられています。更新条件などは連盟によって異なります。教員を誕生させるだけでなく教員の資質向上につとめることもJHFの責任と考え、更新研修会参加の義務付けについて、賛否を問いました。

回収数:72、賛成:35、反対:26、条件付き反対:6、どちらでもない:5

日本体育協会への加盟

JHFの体育協会加盟は、2000年度事業計画として総会で承認され、推進する方向にあり

ますが、各正会員が体育協会の各地県連盟に加盟しなければならないという条件があります。加盟についての意見を募り、回答の内容を賛成か否かにわけると……

回収数:48、賛成の内容:23、反対の内容:9、どちらでもない:16

PG補助動力技能証課程の見直しと改定現状に合せ、補助動力A・B級練習生技能証の発行を廃止し補助動力ノービスパイロット技能証課程へ統合することについて。

回収数:51、賛成:37、反対:10、どちらでもない:4

ドイツに学ぶ。

安全性基準といえばDHVの三文字が頭に浮かぶほど、安全について確固たる姿勢を見せるドイツハンググライダー連盟。その教育システムや運営方法から学ぶため、2001年夏、11名の教員がDHVを視察した。

先々月発行されたDHV(ドイツハンググライダー連盟)の機関誌「DHV info」のトップページに、日本から視察調査団が来訪したことが写真入り半ページにわたって紹介されていた。このスポーツにおいて日本との交流が深まることを大いに期待するコメントとともに……

今回は、ドイツのスクーリングとライセンスの状況について概略を報告しよう。

DHVライセンス

ドイツにおいてハングやパラで飛行するためには、国が定めるライセンスを取得しなくてはならない。この国家ライセンスの発行管理や資格取得のための教育全般について、DHVがドイツ航空局から委託を受けて業務を行っているのだ。

管理しているライセンスの種類は次のとおりである。

Aライセンス:JHFパイロット技能証に相当。特定地域内でのみフライトできる。

Bライセンス:クロスカントリー技能を有するパイロット資格。さらに、この二つのライセンスに付加されるライセンスとして、「トーイングライセンス」と「タンデムライセンス」がある。日本の練習生技能証(A、B、C、NP等)に相当するものは、教育システムの中で練習進度を測るためのものと考え、ライセンスとしては扱っていない。

上記の4種類の国家ライセンスとは別に、DHVでは独自に「パフォーマンスライセンス」を設定し、積極的に関連事業を推進している。この「パフォーマンスライセンス」が日本と大きく異なる点であり、飛行の安全を確保するうえで多大な貢献を果たしている。このDHV独自の「パフォーマンスライセンス」を取得する義務は無いが、会員の圧倒的支持を背景に、たくさんの人々が受講し、このライセンスを取得している。さらにドイツ人だけでなく、近隣のヨーロッパ諸国のフライヤーがドイツを訪れ、パフォーマンスコースを受講しているのだ。

入門者はスクールで基礎教育を受けた



ドイツで最高レベルの評価を受けるパフォーマンスセンター「OASE」。オーナー・トレーナーはPeter Geg。テストパイロット、コンペティターとして知る方も多いだろう。

後、指定された試験官の検定を受けて「Aライセンス」を取得する。その後、40時間以上の飛行経験を積むことで「Bライセンス」の受検資格を得ることができる。試験官は全国各地に約100名いる。

スクールでの基礎教育は、一般的な標準コースで約19日間、講習料は13万円程度である。このスクーリングを受ける方々は、本格的な飛行を目指していることから、講習初期に自分用の機体を求めている。

パフォーマンスライセンス

このDHV独自のライセンスシステムは、4～5年前に重大事故の多発傾向を危惧し、その対策として2年半前から実行されたものである。教育システムが充実していない時期に訓練を受けた者や、あまり良質ではないスクールで教育を受けたパイロット、そして飛行する機会が少なく技量の低下に悩むフライヤーに、安全に関わる問題が発生したという。

DHVでは「スカイスポーツを楽しむために、常時、練習・研修を積み重ね、そしてライセンスを取得したものであっても、再度スクールに入校してリフレッシュトレーニングを受けるべきだ」とアピールした。また同時に、スクールの教育レベルを判定し、公表するシステムを作ることにした。

このようなシステム構築に協調したスクールや教員に対し、連続1週間の教育・研修を行い、現在までに約20校のスクールと40名の教員が、パフォーマンスライセンスに関わる教育を行う許可を得ている。この許可を得たスクールをパフォーマンスセンター、教員をパフォーマンストレーナーと呼んでいる。ちなみに、ドイツのスクールは約100校、教員数は400名である。

パフォーマンスライセンス取得のためには、連続5日間のレッスンと約5万円の講習料が必要となる。

パフォーマンスセンター

パフォーマンスセンターとしてDHVから許可を得るためには、次の事項について詳

細な審査を受け全ての項目に合格しなくてはならない。

- 1 設置すべき装置、器具など設備の有無
- 2 講習に適切と認められる良好な環境の講習室と設備の有無
- 3 良好な環境の飛行エリア
- 4)1名以上の専属パフォーマンストレーナー

パフォーマンスというマヌーバー飛行を想像してしまいがちだが、決してそうではなく、パイロットとして必要な操縦科目を完璧に実施できることが求められている。

飛行科目は次のとおり。

- 1 完璧な離陸と通常飛行姿勢への移行
- 2 完全にバランスのとれたローリング
- 3 完全にバランスのとれたピッチング
- 4)ビッグイヤー(両翼端折り)状態での旋回、フルアクセル、フルアクセルでの旋回
- 5 Bラインストール
- 6)40～50%のコラップスと回復操作
- 7 完璧なスパイラルへのエントリーと、720度
- 8 定められた場所での高度処理・調整と四角形場周飛行経路への進入と着陸

パフォーマンスセンターにおいては、受講者の飛行状況の全てをビデオ撮影することが義務付けられている。

DHVが定めるパフォーマンスライセンスシステムは、その飛行技術の向上のみならず、問題のある装備品の排除や受講生の技術レベルに適應した機材の代替選択、機材の疲労発見など、安全確保に多くの具体的貢献をもたらした。

そして、様々な反対・中傷・非難にも関わらず、このシステム構築を進めたDHVは、今は多くの会員から賞賛され信頼される連盟になっている。

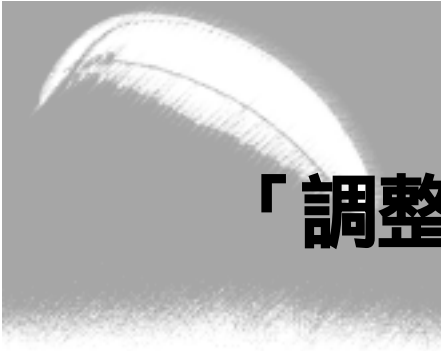
「DHVは第2ステージに入った……」と誇らしげに語っているDHV幹部の姿が印象的であった。(次号に続く)



パフォーマンスライセンス取得者に贈られる証明書と、右下はヘルメットステッカー。ステッカーは厚手のビニール樹脂に印刷された、ちょっと豪華なもの。



DHVパフォーマンストレーナーから離陸操作のチェックを受けてテイクオフ。「こんなに緊張したことはなかった……」と視察団員。



「調整」を軽く考えるな！

私たちは機体や装備に生命を預けて飛んでいる。
簡単に「調整」をする危険を考えよう。



ハンググライダー ダイブスティックの調整は危険。

山本 貢

まあ、この際だからはっきり言わせてもらおうと、最近の日本人は本当に無責任化してしまった。最近はやったアニメ映画でもちょっとこのテーマは取り上げられていたが、こと、われわれの様に空を自分の責任に於いて飛ばなければならないこのスポーツの世界では、そんな無責任は絶対にゆるされなければならないはずである。しかし、私が思うに、どうも日ごろの甘えからか、このスポーツの中にもそんな無責任が浸透しはじめている気がしてならない。

その為からか、エリアでの会話の中にも適当なことを言っているやつはいる。その最たる例がキングポストレスのダイブスティックの調整。

「なんだか訳がわからないけど、トップフライヤーはダイブスティックをずいぶん下げているんだって。じゃあ、ちょっと俺も真似してみようか。」

「おっ!なんてことないじゃん。ちゃんと飛んでるじゃん。」

お前、そりゃそうだ。通常の状態ではダイブスティックなんて効いていないんだから。

ダイブスティックが効くのはV Gを張ってピッチが不安定になるとき、ダイブに入ったとき、ハイスピードでアタックアングルが極端に少なくなったときなんだって!そのことをお前らはわかっているのか!

そう。日ごろフライトではダイブスティックは効いていないので、いくら下げても違いが出てこないものなのです。だから、

ダイブスティックの調整は危険なのです。

ハッキリ言って素人がいじれる類のものではありません。素人がダイブスティックを触るのは、とられの調整のときだけなのです。それも、取り扱い代理店やメーカーの意見を聞きながらが鉄則。

私も仕事からたくさんの方のグライダーをテストしてきましたが、実を言うと、意外に思われる方もいると思いますが、どのグライダーもダイブスティックの設定にマージンは設けられていなかったのです。これは、出来るだけ良く飛ぶ機体を出荷しようと、そして、出来るだけコントロールも楽ししようとメーカーの意向によるものと思えます。ですから工場出荷時に既に限界に調整されていたのです。通常のフライトでは何の支障もなく思えても、いざ、限界テストを行ってみると、やっぱりどのグライダーもマージンなんて残されていなかったのです。これが偽らざる事実なのです。

今、自分の考えだけでダイブスティックをおとしているあなた。今までちゃんと飛んでいたのは、たまたま運が良かっただけです。間違いなくあなたのグライダーは危険な状態です。直ちに元に戻してください。

そして、無責任なのは何もダイブスティックの調整だけではありません。あなたはいったいいつ、自分の乗るグライダーのオーバーホールをしたでしょうか。自分の乗るグライダーの管理を自分自身で行う

のはスカイスportsの大原則です。そんなことも忘れてしまっているフライヤーが最近増えてしまっている気がしてならないのです。

ここでハッキリ言います。

いかなるスカイスportsもそれによって生じた責任はすべてその個人が負い、そして、それに使用される機材もフライヤー自身が責任を持ってその管理をしなければならないのです。これが鉄則です。

もし、ご自分がよくわからないのであれば、どんどんインストラクターに聞いてください。そして、怪しいものは納得できる方法で調べてください。

また、ベテランフライヤーの方々も要注意だと言えます。人間誰しも慣れっこになってしまつとだんだんいいかげんになってしまつもの。「今まで大丈夫だったから」とか、「これぐらいなら」など甘い考えしていると、ロシアンルーレットと同じになってしまい、そのうち必ずアタリが出てしまいます。

アタリが出てしまつてからではもう遅い。あなたもアタリを引きたくなかつたら、自分の乗るグライダーをしっかりとチェックしてください。

スカイスportsでの無責任は必ずあなたに跳ね返ってくるのですから……。

山本 貢(やまもと みつぐ)

和歌山県出身。中日本航空専門学校で飛行機の整備を学び、その後人工衛星の開発から一転してハンググライディングの世界へ。ハング歴15年。スポーツオーバカイトで8年インストラクターとして活躍。その後独立しEXEを設立、ハングのハーネスの設計から製造までを手がけている。

パラグライダー ハーネス調整で飛びが変わる。

山下 慎吾

パラグライダーのキャノピーをチューニングする人はまずいないと思うので、ハーネスのチューニング、いわゆる調整について述べます。

ハーネスはタダの椅子ではありません。ハーネスの調整によって大きく操作性や安定感が変わることを理解して、自分のハーネスに目を向けてください。

ハーネスにはこれが張ると安定する・緩むと不安定になるというベルトがあります。(不安定というのは悪い意味ではありません。極端に不安定でなければ体重移動がしやすいという意味です。)ハーネスによって異なりますが、ほとんどのハーネスは肩ベルトがその役割を担っています。そして、中には肩ベルトと足ベルトがその役割を担っているものもあります。中級者・上級者であれば、シミュレーターにハーネスをぶら下げて、体重移動したときの各ベルトの働きを確かめながらセッティングを進めていくと良いでしょう。

ハーネスのセッティングを乗り心地だけで決めてはいけません。また、初級者ならば、肩ベルト・足ベルトはある程度きつめにしておくと同調が無いでしょう。

カラビナの間隔は胸ベルトで調整しますが、広ければ不安定・狭ければ安定します。40センチ前後が標準的な間隔です。

体の寝かせ具合で重要なことは、次の2点です。前方の視界が十分確保できること。また、乱流で前後に揺れた場合、足が腰より高く振り上げられると操作できなくなるので、寝かせすぎには注意が必要です。逆にあまりに体を起こしすぎると、他のベルトの働きを阻害してしまうことがあります。

安定・不安定は同じハーネスでもセッティングしだいで大きく変わります。安定しすぎていて事故につながることはあまり無いと思いますが、極端に不安定の場合、体が揺られて適切な操作ができなくなったり、怖くなって操作ミスを誘発する原因になります。

荷物の積み方にも注意しましょう。サイドにレスキューを装着するタイプは、片側が重くならないように反対側にツリーラン回収セット等を積んで、バランスをとりましょう。また前後のバランスも大切です。パラストを背中に積んだりすると、足が上がりやすくなって操縦しにくくなります。重いものを前・下に積むように心がけましょう。

ハーネスの調整は、数フライトに一回は確認すると良いでしょう。ザックに押し込んだりすると長さが変わったりしてしまうことがたまにあります。また、着る服の量が最適なベルトの長さも変化するので、冬になって厚着をするとき・冬が終わる

る服の量が減るときも再調整が必要です。

ハードなクラッシュやツリーランディングをした際にもセッティングが変化していないか、またハーネスのベルトや金具に損傷がないか、レスキューのピンが抜けていないかを確認してください。特にベルトは小さくても鋭利な傷がついていたりすると、ベルト破断の原因になる場合がありますので注意してください。

ハーネス自体の調整ではないのですが、ハーネスの吊り位置(カラビナの高さ)がハーネスによって違います。ブレイクコードの長さも、これによって調整が必要になる場合があります。吊り位置の高いハーネスはブレイクコードは短くなり、この場合にはさほど問題は無いと思いますが、吊り位置の低いハーネスの場合はブレイクコードが長くなり、まれに操作に問題があるケースがあるので、そういう場合はブレイクコードを短く調整する必要が出てきます。

滑空性能はキャノピーが決めますが、操作性と安定感はハーネスが決めるといっても過言ではありません。ハーネスの調整によって適切な操作性と安定感が得られ、的確な操作が出来るようになれば、安全なフライトをする助けになると思います。

山下 慎吾(やました しんご)
静岡県出身。94年にパラグライディングを始め。現在アドバンス総輸入代理店ジェネス勤務。国内外の大会に参戦中。国内ランキング4位。

冬の風は重い!?

最近めっきり寒くなりました。これから冬が深まるにつれて北風がますます強くなってきます。たいがいのエリアではパラやハングには厳しい時期になってきました。

さて、この時期の北風というやつはとにかく強烈で、飛んでいる最中に急に風が強くなって飛ばされたなんて話が出るのはたいがい冬です。

ではなぜ、冬の風で、みんなは、あかも簡単に飛ばされてしまうのでしょうか？

それには「風の重さ」が関係しています。風に重いも軽いもあるんかい？という意見もあるでしょうが、ずばり、あります。というか正確には空気の高さに違いがあります。風というのはとりもなおさず移動する空気の固まりですから、その空気

が重ければ当然その慣性重量も重いわけで、それが「風が重い」という事になるわけです。

じゃあ何が空気を重くしているの？と言われれば、それは、ずばり空気に含まれる水分です。水蒸気を含んだ湿気が多い大気よりも、乾燥した大気の方が重いのです。一瞬、水が含まれてるんだから湿気が多い方が重いんじゃないの？と思われる方もありますが、そうでは無いようです。

たとえば湿気を含んだ軽い空気が高い山脈を越える時に、高度が上がるに従って水蒸気を孕んでいられなくなって、雨を降らせる。そして水分を失って重くなった空気が山を越えたところで一気に吹き下っていくのが、有名なフェーンの

メカニズムです。駆け下りてくる重い空気の奔流ですから、当然谷の底ではより強く、速い気流があって、ヨーロッパなどではフェーンの時には谷に降りずに、どこか山の稜線などに降りるといのが定番になっています。

昔、中学校の理科で習った覚えがありますが、日本に冬場に吹く北風はいわゆるこのフェーンのマカニズムによって吹き込む、乾燥した重い風です。だから、テイクオフに立った時に体感する風の強さを、夏の風と比較して判断すると、とんでも無い間違いを犯す可能性があるわけです。

今日の風はちょっと強いかな？と思ったらみなさん少し慎重に。

県
連
だ
よ
り



嵩山のランディング場、橘ウインドパークの練習斜面。

スカイスポーツの発展は社会と共存して.....

山口県ハング・パラグライディング連盟 理事長 土屋 修二

山口県のフライト状況

現在197名の会員数で活動している山口県連の活動状況を紹介いたします。本州の西端に位置する山口県は南に瀬戸内海、北に日本海、西に関門海峡を臨む三方を海に囲まれ、県の中央を東西に中国山地西部が走っているという地形です。県内の主なエリアは気候の温暖な中国山地南側の東部と西部に集中していて、冬季の積雪もほとんどなく、一年を通して県内外のフライヤーが各エリアで活動をしています。また、ほとんどのエリアでハンググライダーとパラグライダーが同じ空を共有しており、フライト後のフライヤー間交流も活発です。

山口県内の主なエリア

山口県の主なエリアをいくつかご紹介いたします。年中を通してフライト可能ですので、ぜひ、お越しください。

高照寺山(東部・玖珂郡周東町)HG・PG
高度差500m

山の東側に瀬戸内海をひかえ、県内最大の会員数を有するエリア。県の最東部に位置し、広島県など県外からも多数のフライヤーが訪れます。



会員の手で整備した高照寺山テイクオフの完成記念に。

嵩山(東部・橘町)HG・PG 高度差600m

県東部の瀬戸内海に浮かぶ大きな島のほぼ中央に位置し、南北両斜面にあるテイクオフからは四国、九州が一望できます。ランディング場のある橘ウインドパークには講習斜面もあり、宿泊も可。

華山(西部・豊田町)HG・PG 高度差650m

北と南にそれぞれ広大なテイクオフ台を持ち、ランディング場も広く初心者も安心して飛べます。2001年11月にはハンググライダー西日本学生選手権大会が開催され、学生達で大変な賑わいをみせていました。

保木山(西部・菊川町)HG・PG 高度差300m

華山から5kmほど南にあり、ソアリングの確率が高く、上級者はクロカモンもねええます。

千畳敷(北部・日置町)HG 高度差300m

日本海に面した絶壁での安定した海風によるリッジソアリングが魅力。高度差300mのテイクオフからリッジで300m～600mのゲインが可能。

山口県連の活動

講習会

年に一回程度、講習会を主催しています。



2001年夏、博覧会「きらら博」会場で体験講習会を。

レスキューパラシュートや、飛行技術に関する講習会など、各方面の有識者を講師に招いて、会員のレベル向上を図っています。

普及活動

スカイスポーツの普及を目的として、年一回程度、県内関連団体と協力して体験講習会を開催しています。2001年は8月、阿知須町で開催された博覧会「きらら博」の「スポーツの日」に体験講習会とグライダーの展示で参加しました。

競技後援活動

日本選手権県代表選手の選考と後援、県内で開催される各競技会の後援をしています。例年3月には県連大会を主催しており、次回も熱い戦いが繰り広げられることと希望しています。

山口県連と今後の活動

私たちのフライト活動は、その場を一般社会生活圏と共有していることから、社会との関わりは切り離すことはできません。スカイスポーツが社会と共存して発展していくことを願い、昨年度より山口県レクリエーション協会に加盟しました。

以後、協会主催のフェスティバル等に参加する事により、TV、新聞等のマスコミにフライト活動を採りあげられることも多くなり、社会的認知も少しずつ深まっています。このような活動がフライト環境の改善につながっていき、より多くのフライヤーが生まれ、育って行くことを期待しています。

山口県連へのお問い合わせは下記まで
土屋修二(理事長)TEL.0827-63-1206

県連ニュース

宮城県ハンググライディング連盟

[2001宮城そらまつりの報告]

去る10月28日(日)宮城蔵王えぼしスキー場にて、県内各地から65名の参加者を集め、宮城そらまつりが開催されました。当日の天気は曇り、9時過ぎに4機のダミーフライトでスタート。約15分のフライトでまずまずのコンディションだったのですが、10時の開会式の後は上空の風がフォローに変わってしまいました。なんとかタイミングをみて数機のバラがテイクオフしましたが、さらに風が悪くなり、お昼頃には雨も降り始めました。いも煮の昼食会を行い、天候の回復を待ちましたが、残念ながら午後のフライトは中止となり、最終的には7名だけのフライトになり、次回そらまつりのフライトを祈りつつ、帰路につきました。

[記:今井政秀]

山形県ハング・パラグライディング連盟

[スカIFESTIVALの報告]

9月15日(祝)16日(日)に山形県連主催のスカIFESTIVALが開かれました。初日は体験会を行い、パラのライズアップやクレーンでハングをつるして試乗しました。夜は県連総会と交流パーティ。県内クラブの模擬店が出て盛り上がりました。翌日はコンディションも良く、仮装フライト、ハング・パラのミニコンペで多くのフライヤーが楽しく飛ばしました。準備していただいた各クラブの皆さん、本当にありがとうございました。

[記:金井 誠]

東京都ハング・パラグライディング連盟

[なぜフライヤー人口が減ってるの?]

昨年11月11日、丹那エリアで行われた教員の更新研修会にベテラン7名の教員・助教員が集まった。その中の座談会でこのテーマについての興味深い意見交換がなされたので、その一部を紹介する。

初心者が増えていないことが最大の原因である。特にスポーツ愛好者の増加に必須の若い女性に敬遠されはじめているのではという意見には、他人事ではないと感じた。初期投資額が高すぎる上に、講習が進むにつれて半強制的に機材を購入させられたり、なかなか講習が進まずに居づらくなったり、2機目の機体を自由に選べなかったり、という事例があげられた。

バラやハングを始める前には知らなかったこのような場面に遭遇すると、本来の楽しみがそがれ、空に対する夢をなくしてしまっても仕方ないのではないだろうか。

結論として、今このスポーツに求められているのは、安全に(自己責任)安く、楽しく、仲間と集い、初心者の参加しやすい雰囲気作りではないだろうか。どこのエリアに行っても見知らぬフライヤー同士がクロスチェックを相互に行い、アシストを気軽にしてあげられる、あの初期のよき時代に戻そうじゃありませんか?

皆さんのご意見お待ちしております。

E-mail:tokyohpf@skysports.or.jp

[記:日垣昌士]

神奈川県ハング・パラグライディング連盟

[催し物のおしらせ]

神奈川県連では以下の検定会・理事会を予定しております。

12月24日 KHPF助教員検定会

神奈川県箱根町の県連事務局内にて。希望する方は県連事務局までお問い合わせを。

2月3日 KHPF学科検定会

横浜市西区の神奈川県民センターにて。フライヤー登録者なら受検可能です。希望者は県連事務局まで。

2月5日 KHPF理事会

横浜市戸塚区の東戸塚地区センターにて。どなたでも参加できます。ぜひお越しを。

県連事務局 TEL.0460-3-5391

[記:中村ヤスヲ]

愛知県フライヤー連盟

[A F F 補助動力P G大会報告]

去る11月11日(日)午前8時30分から愛知県常滑市の「名半エリア」にて、連盟主催の第2回目の補助動力パラグライダー大会が開催されました。当日は天候に恵まれ朝から絶好のモーター日和、大会エントリー18名で競技開始。競技種目はタッチアンドGO+ターゲット+タスク。優勝は山崎敏充選手、2位は鈴木雅人選手、3位は加藤勝二郎選手でした。優勝の山崎敏充選手は優勝トロフィー、賞金、賞品、各選手も豪華賞品を手にし大満足でした。

午前中に競技は無事終了し、豪華バーベキューで全員昼食。午後からは、参加者全員でフリーフライトや試乗会を楽しみました。また大会開催にあたり、中日パラグライダーズスクール、第一興商、ラムエッティのみなさんにご協力をいただきありがとうございました。

大会の詳細内容は県連ホームページでもご覧いただけます。 [記:山口貫太郎]



左から3位・加藤、優勝・山崎、2位・鈴木各選手。(愛知)



参加者一同。競技や昼食、一日を一杯楽しんだ。(愛知)

兵庫県フライヤー連盟

[第4回兵庫スカifestival報告]

4回目を数える今大会は、11月3日・4日の2日間神鍋エリアで開催され、参加者250名以上、県内25登録団体が集まり、大変な賑わいをみせた。

初日は前夜祭のみであったが、料理がおいしいだけでなく、神鍋エリアでバラにのめり込み始めたプロのオールディーズ・グループであるタイニーパブルズの歌で会場はダンスホールと化してしまっただけでなく、あっという間に終了時間となり、この日は名残惜しく解散。

続く2日目は、昨日からの雨が小降りになったものの降り続いていた。しかし、昼過ぎになると青空が顔を覗かせ、山頂から雲底までは300m以上の高度差もできていた。そして、風も絶好の北風が変わってきたのだ。競技はターゲット、タンデム、オープン3種目。その後条件がよくなり、一時は50機あまりの色鮮やかなキャノピーが空に舞っていた。また、加藤豪さんと只野正一郎さんがアクロバットを披露、会場の喝采を浴びた。

大会は日暮れとともに幕を閉じた。前夜祭で盛り上がり、雨から晴れへの気象変化に感動し、選手全員がフライト出来、喜びの余韻を残して無事岐路について頂けたことは大会事務局としても本当に良かったと思います。

[記:Y高H]

長崎県ハング・パラグライディング連盟

[祝! 開校20周年]

猿葉山エリアは土日に限って風が安定せず、耳納連山、伐株、鏡山、阿蘇などへの遠征で、各クラブは秋のフライトをしのいでいる。そんな中、スカイスポーツスクール「長崎フリーフライト」は今年、開校20周年を迎え、20周年記念パーティが開催された。山口博史校長がスクールを開校されて以来、エリア開発などさまざまな困難を克服し、数多くのスクール生を大空に送り出した数々の思い出話に花が咲いた。

[記:岡本 修]

沖縄県ハング・パラグライディング連盟

住所変更 〒901-2401 沖縄県中頭郡中城村字久場1943 ブルースカイ内

TEL. 098-942-3600 FAX. 098-942-3611



雨が上がり選手全員がフライトできた。(兵庫)

委員会の動き

PG競技委員会 委員長 曾我部 真人

2001年の大会は、11月連休に行われる平和カップ2001in広島を最後に幕を閉じようとしています。様々な各地での大会を楽しめたでしょうか。山形県白鷹での日本選手権が終了し、川地正孝選手が日本チャンピオンの栄冠を手に入れました。ジャパンリーグ総合優勝は加藤豪選手に。

JHF競技としては、2002年度はルール上大きな変更は予定していません。2001年度のルール上で若干の手直しをする程度です。

最近、競技ばかりではなく日常のフライトにおいても雲中飛行が危険であるという意識が薄れているような気がします。特に競技では少々の危険を冒しても高度を稼ぎたい時が出るのも事実ですが、2002年度はPWC同様、雲中飛行に関して厳しくペナルティーを課していきたいと思っています。それと曖昧な言葉を無くしてゆくように心がけてゆきたいと思っていますので、気が付かれた点がありましたら是非ご連絡ください。

HG競技委員会 委員長 大澤 豊

あけましておめでとうございます。皆様いかがお過ごしですか？

いよいよ2002年ハンググライディングシリーズのスタートです。第1戦は2001年12月31日～2002年1月3日に開催の「第16回西富士ジャンクラシック」。第2戦は、1月11日～14日に開催の「第13回丹沢スカイグランプリ」です。

2002年からGPSがセクター確認のバックアップとして使用できるようになります。使用できるGPSは各主催者にご確認ください。

2002年度日本選手権開催地は、山形県南陽市の南陽市スカイパークエリアに決定し、開催日程は2001年4月28日(日)～5月4日(土)の7日間です。また、FAIカテゴリー2の公認を予定していますので、参加予定の選手はスポーティングライセンスの取得を忘れずに！HG競技委員会のHPから申請書をダウンロードできます。

尚、事務局にメールをくだされば競技委員会インフォメーションをお送りします。HG競技委員会事務局 FAX.0299-44-1346 E-mail:haku@tomato.saino.ne.jp

http://tomato.saino.ne.jp/

haku/JHF-HG.html

教習検定委員会 委員長 小野寺 久憲

教員検定会の延期とお詫び

11月中旬に開催予定であった「教員検定会」の準備が整わず、延期となっています。誠心誠意をもって準備を進めていたのですが、一部の問題を解決することができず、当初計画どおりには開催できなくなりました。現在、常任理事会の審議を経て理事会決議をいただき、来年2月から3月に開

催できるよう関係各位と調整中です。

受検申込をいただいた助教員の皆様や各都道府県連盟、施設利用をご承諾いただいた関係者の皆様、そしてフライヤーの皆様に対し、本委員会の力量不足によって延期となったことを深くお詫び申し上げます。計画の詳細が決まり次第、あらためてご案内する予定です。

次期教習検定委員の募集についてお願い
本委員会は、このスポーツの発展を担う大事な事業を行っています。教員としての業務経験のある方が望ましいと考えていますが、是非多数の応募をお願い致します。

安全性委員会 委員長 城 涼一

JHSQ(安全性委員会)では、HG・PGの事故を防ぐためには、これまでに発生した事故に関する情報を集計し分析することが不可欠と考えています。しかし、これまでは事故(アクシデント)が発生しても報告がなされないことが多々あり、集計・分析の大きな障害となっていました。そこで、少しでもこの状況を改善するために、事故報告書を書き易くしました。これまでの書式はA4版の用紙一枚に多くの事柄を記載するため、必然的に文字が小さくなり書き込み難いという制約がありましたので、もっと大きな文字で書き込めるように書式を変更しました。同時に記載事項を整理し、事故の経過を図で記載することができるようにしました。この書式は、JHSCのホームページからダウンロードできます。

また、事故(アクシデント)に至らない程度の出来事(インシデント)についても、より簡易な報告制度を作っていく予定です。これらの報告を集大成して、全てのフライヤーに過去に発生した事故を知識として経験する機会を提供するのがJHSCの目標です。一人の経験を全フライヤーの経験として、事故を少しでも減らしていきましょう。事故報告制度へのご協力をお願い致します。

JHSC 型式登録機

輸入パラグライダー

2001年10月3日の新規登録

- PI-820 ユービー GAMBIT-S
- PI-821 ユービー GAMBIT-M
- PI-822 ユービー PULSE-S
- PI-823 ユービー PULSE-M
- PI-824 ユービー PULSE-L
- PI-825 GRADIENT AVAX RX-26

2001年10月10日の新規登録

- PI-826 ユービー MAKALU-S
- PI-827 ユービー MAKALU-S
- PI-828 ユービー MAKALU-M
- PI-829 ユービー MAKALU-L
- PI-830 ユービー SUMMIT-S
- PI-831 ユービー SUMMIT-M
- PI-832 ユービー SUMMIT-L

プロトタイプ搭乗者増加

XP-035 ウインドテック サイレックスコンベ25型プロト高木望、福田武史

2001年10月12日のプロトタイプ新規登録

XP-038 ユービー GAMBIT-QSプロト加賀山務、井尾木浩二、恩賀雅義

2001年10月16日の新規登録

- PI-833 ADVANCE オメガ5-24
- PI-834 ADVANCE オメガ5-27
- PI-835 ADVANCE オメガ5-30
- PI-836 GIN GLIDERS BOOMERANG-S
- PI-837 GIN GLIDERS BOOMERANG-M
- PI-838 GIN GLIDERS BOOMERANG-L
- PI-839 GIN GLIDERS NOMAD-XS
- PI-840 GIN GLIDERS NOMAD-S
- PI-841 GIN GLIDERS NOMAD-M
- PI-842 GIN GLIDERS NOMAD-L

2001年10月16日のプロトタイプ新規登録

XP-039 ADVANCE オメガ5-24プロト 斉藤竜男、和田浩二、岩谷勝弘、北がおり、星利彦、西野力也

XP-040 ADVANCE オメガ5-27プロト

山下慎吾、後藤雄大、山下敬雄、高杉慎吾、山本雅史、矢野孝史、長島信一、廣谷泰一

XP-041 ADVANCE オメガ5-30プロト

XP-042 プロデザイン プロジェクト-Mプロト

佐藤哲也

XP-043 GIN GLIDERS BOOMERANG-XSプロト

神山和子、水沼典子、高藤とよ子、金川利幸

XP-044 GIN GLIDERS BOOMERANG-Sプロト

大野健治、西ヶ谷一志、宇治山寛、扇澤郁、

斉藤孝義、加藤豪、内藤丈、時田建司

XP-045 GIN GLIDERS BOOMERANG-Mプロト

清真雄、辻強、柏倉剛、只野正一郎、川地正孝、吉川正雄、植田真吾、若林康樹、吉田和博、金澤広志

XP-046 GIN GLIDERS BOOMERANG-Lプロト

伊藤正秋、児島彰

プロトタイプ搭乗者増加

XP-019 NOVA X-77 20プロト 中田靖之

2001年10月29日の新規登録

PI-843 2001/10/29 FLIGHT DESIGN Boxtair-M

*最新情報はJHFホームページ(安全性委員会のページ)をご覧ください。

あなたの力をJHFに! 8委員会の委員・広報出版局員を募集します。

前号でもお知らせしたように、2002年春、JHF常設委員会の委員と広報出版局の局員の任期が満了します。そこで、ハング・パラグライディングのため、連盟のために力を貸して下さる方を募集します。「こうしたらもっとよくなるのに……」とか「何故これができないのだろう……」とか、JHFにひとこと言いたい方、ぜひ立候補してください。問い合わせ・立候補届けは、JHF事務局まで、お気軽にどうぞ。立候補の締切りは2002年1月31日。新委員の任期は2004年3月31日までです。

尚、選挙管理委員会、2001年新設の特別委員会である法務委員会の委員も合せて募集します。

委員・局員募集

- ・パラグライディング競技委員会
- ・ハンググライディング競技委員会
- ・教習検定委員会
- ・補助動力委員会
- ・制度委員会
- ・安全性委員会
- ・選挙管理委員会
- ・法務委員会
- ・広報出版局

JHF事務局

TEL:03-5840-8311

FAX:03-5840-8312

E-mail:jhf@skysports.or.jp

理 事 会 ダ イ ジ ェ ス ト

10月11日理事会

2001年10月11日(木)13時00分～18時 場所：JHF事務局会議室 出席：朝日和博、伊賀隆一郎、関谷暢人、瀬戸口裕郎、田中美由喜、長谷川光男、藤野光一、松永文也、宮川一郎、宮田富由、横尾和彦各理事、欠席：宮川雅博監事 出席理事11名。定足数に達し10月理事会成立。) その他の出席：法務委員会...城涼一、安田二郎、小林秀彰、参考人...中野正人弁護士、小堀憲助弁護士、東京海上(宇井課長代理、鈴木課長代理) 議長：関谷暢人

審議の前にJHFが現在抱えている訴訟問題について明確な方向性を出したいと思うという朝日の意見に全員同意。中野弁護士、城法務委員長、小堀弁護士からアドバイスを受けることにする。また東京海上の担当者同席のもと保険の側面からも検討することにした。

中野弁護士が「1.パラグライダースポーツは自己責任が原則である。2.JHFは安全配慮義務の主体ではない。3.自然条件の安全性確認義務に問題はなかった。」という3点を柱に説明。城委員長による法務委員会中間報告、小堀弁護士の本訴訟に対するアドバイス。東京海上担当者の「訴訟と主催者賠償責任保険との係わり」についての説明。

以上、各意見を聞いた後、今後の訴訟対応について検討。以下のような意見が出た。主催者側に安全配慮義務違反はなかった。フライヤーの自己責任を明確にしないと競技会開催が困難になる。少なくとも地裁判決までは中野弁護士にお願いする。地裁判決後の方針についてはあくまで理事会が最終判断すべきである。被告3者に責任がないという点において利益相反はない。JHFは公共性の自覚のもと

会員に対し公平であるべき。被告3者は責任の程度が異なるので分離して訴訟に当るべき。JHF独自の弁護士をお願いし被告3者は分離しないで対応すべき。現状どおり訴訟進行を行うかどうかについて採決の結果、賛成6、反対2、棄権2で、当訴訟問題については、引き続き中野弁護士を訴訟代理人として、現状どおり訴訟進行することになった。

F A I 国際パイロット技能証の件については文書理事会に。

11月14日理事会

2001年11月14日(水)13時00分～18時 場所：JHF事務局会議室 出席：朝日和博、伊賀隆一郎、関谷暢人、瀬戸口裕郎、田中美由喜、長谷川光男、藤野光一、松永文也、宮川一郎、宮田富由、横尾和彦各理事、宮川雅博監事 欠席なし(出席理事11名。定足数に達し11月理事会成立。) 議長：田中美由喜

審議1：教習検定会延期について 教習検定会は今年度中(平成14年3月まで)に開催するよう準備することになった。参加者の助教員資格及び学科検定合格の効力は次回検定会まで有効とする。開催延期によって航空券のキャンセル等、交通費の負担が生じた申込者には実費返金措置となった(全員同意)

審議2：中野弁護士からの要望書について 中野弁護士より、1.訴訟進行にあたって、これから従前通りの方針で行うかどうかの再確認、及び2.訴訟手続きを円滑に進める為に、JHFと中野弁護士との効率的な連

絡体制の確立を求める要望書が提出された。理事会は、1について従前通りの方針で訴訟を進行する事をお願いする。また2については法務委員会現担当理事2名に加えて、在京理事1名を窓口とし改善を図る事とした。

審議3：法務委員会提案書について 提案(1)重要な案件を審議する際は、委員会の意見を尊重することについては既に実施済みであることを確認。提案 訴訟準備書面作成に当たった問題の件については、具体的文面を作成した上で検討する。提案 現訴訟問題の争点について再確認するため関係委員会へ諮問するかどうかについては、現委員会への諮問は見送ることになった。

審議4：常設委員会委員に対する委嘱停止について 個人の将来にかかわることであり、慎重な手続きが必要であるとして、次回理事会に持ち越された。

ここから先の審議等は1名退席。

審議5：文書理事会...国際技能証のJHF技能証への書換えについて 書換えの手数料は規程上決まっていなかった。検定試験免除という形で通常の手数料を徴収し技能証を発行する手続きになる。賛成7、反対0、棄権2で、国際技能証保持者に検定試験を免除してJHF技能証を発行することを可決。

審議6：補助動力技能証課程の見直しと改定 継続審議とする。

審議7：2002年FAI一般賞受賞候補者推薦について 次回締め切りまでに文書理事会で審議。

理 事 活 動 報 告

JHFの理事は、それぞれが担当する事業が滞りなく進行するよう、さまざまな仕事をしている。9月下旬から11月下旬までの活動内容を各理事に報告してもらおう。

会長 朝日 和博

1.10月は山形県白鷹町でのPG日本選手権、三重県伊勢市でのPG補助動力選手権(HG補助動力のプレ大会含む)を開催しました。いずれの開催地でも首長さんより直々にご挨拶頂き、地元の方々にも大変歓迎されました。スカイスポーツに対する理解が深まってきており、同時に生涯スポーツとして認められつつあることを実感いたしました。

2.反面、レッグベルトの掛け忘れ等による事故が例年になく多く、事故の防止に努めなければなりません。特にベテランと言われるフライヤーの事故が多いようです。一人一人が事故防止の意識を高めることが何よりも重要です。指導者は周りのフライヤーに注意を喚起するのはもちろん、お互いに注意し合って不幸を招かないようにして頂きたいと思えます。

3.皆様にお詫びしなければならぬのですが、11月に予定されていた教員検定会が延期となってしまいました。これは、安全対策とそれに伴う諸々の対応方法を前向きに再検討する時間が必要であった為です。既に予定されていたフライヤーには大変ご迷惑をおかけしましたが、より一層充実した検定会を年度内に開催する事でお詫びを頂きたいと思えます。

4.現在は2002年度事業方針の立案と2001年度補正予算案、2002年度予算案の作成を急いでおります。パラグライダー工業会、パラグライダー事業者懇談会の意見も聞きながらスカイスポーツ発展の為、理事が一丸となって頑張っております。

5.11月15日にJAAとの懇談会を持ち、出来る限り早くこのスカイスポーツが国体種目に入る事、ワールドゲームズの正式種目に入り、いずれはオリンピック種目に入るようにしたい事、将来の夢の実現に努力したい事等話し合いました。

常任理事 関谷 暢人

「F A I 国際技能証について」

4年前に(財)日本航空協会から権限委譲された「F A I 国際技能証」の普及啓蒙活動が滞っており、担当理事として早期実施にむけ最優先課題と認識しております。そこで、紙面を借り「F A I 国際技能証」そのものを広く知ってもらうことから始める事としました。

第1回目は「F A I 国際技能証の趣旨」、国際航空連盟(F A I)は世界各地のパイロットに対し「優れた飛行技術の成果」を認めると共に記章を授与する制度を制定してお

ります。この制度は世界共通で、技能証とは別に技術の証明にも成りうるものです。たとえばパラグライダー部門における登竜門「F A I イーグル銅賞」を見てみましょう。飛行成果(1)15kmの距離飛行、(2)1時間の滞空飛行、(3)500mの獲得高度飛行、が求められております。尚、この飛行実績を証明する為に承認検定された自記高度計(パログラフ)の記録と、国際技能証検定員(国内で約100名)の証明が必要です。

このくらい(?)の飛行はある程度のパイロットであれば経験しているのではないのでしょうか? 日本記録を狙って、まずは、国際技能証を獲得されてはいかがでしょうか?

常任理事 長谷川 光雄

山形県白鷹町でのパラグライディング日本選手権、4日目と5日目に会長代理として出席しました。成立した3日目と同様4日目も天気はよかったです。コンディションが良く今日は駄目かと諦めかけたところ、ゲートクローズギリギリにテイクオフしていった何名かがタスクをクリアして、日本選手権はめでたく成立しました。表彰式で、総合優勝者に(財)日本航空協会航空スポーツ室部長の杉山様より選手権者証の授与、続いてJHFより各入賞者に賞状とメダルを授与しました。閉会式では白鷹町の橋本町長さん、大会副会長でトントンとんびスクール校長の植木さんほか関係者のご挨拶を頂戴。

この大会のため町をあげてご協力頂いた白鷹町の皆様、あらためてお礼申し上げます。

常任理事 横尾 和彦

10月1日、(財)アマチュア無線振興協会と連絡。アマチュア無線の普及状況など情報交換。従前同様パンフレット配布協力する。10月4日、総務省関東電気通信管理局電波管理部監視第一課。アマチュア無線違法使用とその対策について相談。当方の対応策等報告しつつアドバイスを伺う。スカイレジャー航空無線の使用状況等もお話する。パンフレット作成の件についても相談。10月23日、PG工業会の会議に出席。このスポーツを職業とする人たちの考え、悩みなどいろいろ参考になるお話が伺えた。文部科学省生涯スポーツ課挨拶。定款13条3項改正の件、体育協会加盟の件などお話する。文部省も名前が変わって、対応も随分と変わったと妙な感慨に浸る。帰りに航空協会へ。最近「JHFどう?」という感じの皆さんの表情が伺える。改めて自分の責任を強く自覚、他の理事にもっと足を運んでほし

い。10月26日、航空協会訪問。国民体育大会参加の段取り、(財)日本体育協会加盟へのステップなどお話する。JHFの近況報告等が話題。新役員活動状況、世界でのPG競技選手の活躍。特にJHFの方向について心配しておられる。10月29日、航空協会。PG界の今後についてお話し。JAA-JHF役員懇談会の企画。11月1日、東京海上火災保険航空保険部・宇井課長代理と面談。訴訟の見通しなど。11月15日、航空協会-JHF常任理事との懇談会、やっと実現。角田スポーツ航空室長、杉山部長から、静かだがかなり厳しい指摘ご意見を伺う。

理事 藤野 光一

現在、制度委員会におきまして、選挙制度改革の議論が活発に行われております。私も担当理事として、委員のみなさんの議論を頼もしく拝聴させて頂いております。前回の選挙のような混乱が起きないように、委員のみなさんが知恵を絞って活動されています。きっと良い制度になると思えます。ご期待ください。

理事 松永 文也

厚生活動補助事業費にかかるハング・パラグライディング活動を通じた社会福祉活動に関する調査の回答がときました。今年は3都道府県連盟から14の活動の報告がありました。この後モデル活動の選定に入るわけですが、日本全国で草の根レベルで行われている社会福祉的活動はもっとたくさんあると思います。報告期限は切れていますが、もし、報告漏れをってしまったような活動がありましたら一度JHFまでご一報ください。より多くのフライヤーの社会福祉活動を記録として残していきたい事業ですので、出来る限り受理していくよう考えています。よろしくお祈りします。

尚、お知らせの中で「養護施設」という言葉を違いましたが、「児童養護施設」に訂正します。児童福祉の仕事をされているフライヤーの方からご指摘いただきました。

理事 宮川 一郎

1.自動車月刊誌「RVマガジン」より、JHF紹介記事掲載の申込があり、記事内容のチェック、許諾の連絡。

2.長野県内の観光情報を中心のサイトからリンクの申込があり、掲載情報をチェックし、許諾の連絡をした。

理事 宮田 富由

瀬戸口副会長と担当をしております法務委員会並びに安全性委員会の各委員会メンバーと全員出席の委員会を開催した。

@sky

空の情報いろいろありのページ、その名もアット・スカイ。

いつでも心は空の彼方というあなた、必読!

もちろん寄稿も大歓迎。

「お題はなあに?」や「大会報告」、エリア紹介、フライト自慢、JHFへの意見など、どしどし送ってください。

koho@jhf.skysports.or.jp FAX.03-5840-8312

タメにならない航空史 - 5

飛行船騒動記

矢ヶ崎弘志

日本の航空事始は、日野、徳川両大尉が代々木練兵場(現・代々木公園)で初飛行した。明治43年(1910年)12月19日である。ただし、これは飛行機に限っての話。その3ヶ月ばかり前に、山田式1号という国産の飛行船が飛んだことにも触れておかないと不公平になる。1号はただ空中に浮いたという程度の飛行で終わったが、追いかけて作られた2号がクロスカントリーまがいの飛行をした。明治44年(1911年)2月8日、大崎から青山練兵場(今の神宮外苑あたり)まで約6kmを飛んだのである。

この飛行は東京市民を驚かせ、新聞も大々的に報じたが、実は意図したものじゃなかった。繫留索をつないで工場の上空を飛び、その後自由に飛行で着陸する予定だったのが、風の具合を見計らって索を切り離したら、あらぬ方向へ飛んでしまったのだ。乗組員の不慣れもあったようだ。飛行船は索をぶら下げたまま北へ流れ、御殿山(JR五反田駅付近の高台)にあった、元薩摩藩主島津家のお屋敷の高い松の木に引っ掛った。自転車で後を追いかけた工員たちが塀を乗り越えてみると、殿様をはじめ大勢の人たちが縁側に赤い毛氈を敷いて座り、飛行船を見物なさっていたという。

お殿様以下が楽しんでおられる間に何とか捕まえようと5~6人が木に登ったが、その前に索が枝から外れ飛行船は再び空へ。追いつがる工員たちを樹上に残して青山の上空にさしかかった。下は練兵場で、たくさん兵隊が訓練している。人手の要る飛行船の着陸には絶好の場所だ。

ここを逃したら面倒なことになると、乗

組員たちは着陸操作したがうまくいかず、低空をのたうちまわり、方向舵で電話線を10本ばかり切った揚句に、やっと兵隊たちの手で取り押さえられた。

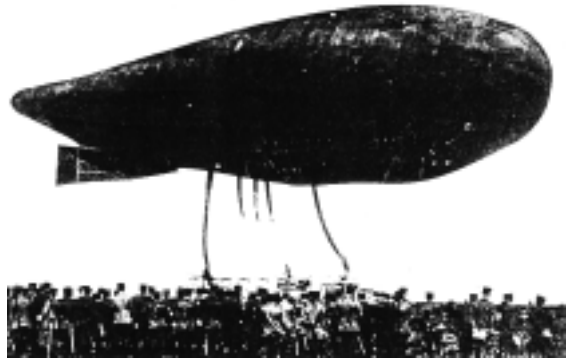
だが、回収の苦労話はさらに続く。飛行船の本体はガスを抜いて畳めたが、鉄骨トラス構造のゴンドラは分解できず、大きいまま担いで帰らねばならないのだ。といっても、問題はその重量ではなく寸法にあった。担ぎ手の数は足りていたものの、当時の東京市内の道幅は、長さが30m近くもある代物が通れるほど広くはなかったのだ。角が曲がれないから迂回に迂回を重ねて、大崎の工場へ帰りついたのは真夜中過ぎ。わずか6kmあまりの気まぐれクロスカントリー飛行は、後始末が大変だった。

後始末といえば、もうひとつ電話線切断の件がある。この行為は厳罰の対象だったが、当局は「空から降りてきて電話線を切ったのだから、落雷のようなもの。天災である」と、不問にしてくれたそう。明治末年ごろのお役人は四角四面じゃなかったらしい。

山田式2号飛行船の東京上空散歩から8ヵ月後、埼玉県の新所沢飛行場(現在の航空公園)で陸軍の試作したイ号という飛行船が飛んだ。滞空1時間41分、飛行距離32kmの記録を残しているが、この飛行船だって最初から順調だったわけではない。

まず、完成直後に陸軍の偉い人から「姿が無様である。まるでサツマイモだ。設計したのはだれか?」という文句が来た。この偉い人、元帥なのか大将なのかは分らないが、とにかく本気で腹を立てていたとみえて、責任問題にまで発展しかかった。格好が不細工なだけに大袈裟な話であるが、改めて写真を見れば確かにサツマイモそっくりだ。苦情の一つぐらい言われても仕方なかったかも知れない。

そこへ助け舟を出したのが、陸軍の技術顧問で帝大教授の田中館愛橋博士だった。とはいっても、文句をつけた人物を正面切って宥めたわけじゃなく、歌を一首詠



なるほど空飛ぶサツマイモ、イ号飛行船。

んだだけである。

所沢うべもと見けり

名にしるき藩のなりして

そらふねの飛ぶ

<サツマイモで有名な所沢を飛ぶ飛行船がサツマイモの姿をしているのは当然だ>といわれちゃあ、それ以上の目くじらは立てにくい。"そらふね"とは飛行船のことだ。田中館博士のウィットが効いて、責任追及の声は消えてしまった。

イ号飛行船は、ルックスをけなされてスネてしまったかのように、1~2回目までの飛行結果は冴えないものである。1回目は離陸直後にエンジンが止まってしまい、60mばかりの高さまで浮いただけだから、飛行時間や距離はゼロも同然。とても飛んだとはいえずノーカウントである。仕切り直しの2回目はエンジンを警戒し、繫留気球用のスチール・ワイヤをゴンドラに結びつけて飛んだ。言葉は悪いがヒモツキである。これが裏目に出た。ワイヤの繰出しが飛行船の速度に追いつけなかったのだ。たまるまておくはずのワイヤがピンと張って、飛行船は舵が全く効かない。奇妙な綱引きをやっているうちに、1,000mのワイヤが全部ほどけ、ウィンチドラムの付根で切れてしまった。

飛行船に引きずられたワイヤがうなりをあげて暴れ回るので、地上の作業員は取り押えるどころか、危なくて屋外にも出られない始末。安全を考えて取付けたワイヤは役に立たず、飛行場付近の畑で桑の木に絡みつき、何本かを引っこ抜くという被害を与えただけ。要らざる心配だったのだ。

イ号飛行船の飛行に関し、当時の公式記録は、このドタバタ騒ぎに全く触れていない。上述の滞空1時間41分、飛行距離32kmを大きく扱い、2回目の飛行については、単に"距離4.5kmを飛んだ"とだけ書いてある。関係者の面子を立てたのだろう。



お殿様も見物なさった山田式2号飛行船。

パラグライダー 今昔物語

最終回 OMEGA 3

栗山 公秀

懐かしのあの機体、忘れられないこの機体、日本のパラグライディング史上に名を残す翼、再登場。

1987年にはじめて空を飛んで以来、数えてみたら今まで8機のパラグライダーを乗り継いできました。どのグライダーにもそれぞれに忘れられない思い出があります。

はじめて空を飛ばす楽しさを教えてくれたエアロン、ソアリングを身近にしてくれたアスリート、よりグライダーに近い滑空性能を堪能できたファントム。

“じゃあさ、今まで乗った機体でどれが一番好き？”と聞かれたら、答は決まっています。

マイ、ベストグライダーといえばアドバンスのオメガ3をおいて他にありません。

前回紹介したオメガ2の、特徴ある翼形とは違ってかわった翼形です。前縁が後退し後縁が直線に近い本格的な後退翼はオメガシリーズの特徴ですが、最近の機体デザインに通じる実に美しい翼形です。飛びながらキャノピーを見上げるのが楽しかったといったら大袈裟かな。

アドバンスのアイデンティティでもある“つ”ですが、イブシロンやシグマと同じような形になりました。オメガ2では3本だったライザーも普通の4本に戻り、極端に短かったラインも普通の長さになりました。そのせいかピッチ運動はかなり落ち着いた感じで取り扱いやすくなりました。

でもロール運動は軽く、上手いパイロットなら素早くイメージどおりのバンクをかけられたことでしょうか(最初キャノピーが遠く感じたものですけどね)。

ライズアップ特性もだいぶ改善されました。というか、かなりやりやすくなりました。

正直、オメガ2のライズアップ特性は僕にはなじみず(というか難しく)得意ではなかったのです。

でもオメガ3は違います。特にリバースでのライズアップはコントロールで、過度にテンションをかけすぎなければ実にスマートにテイクオフできます。コツをつかんでからは、スタ沈知らずでした(同社比)。

また、斜めリブを採用していない最後のオメガです。

このころからの機体はセンタリング中は、外翼のスピード管理をきちんとしていないとターンがどんどん切れ込んで、きれいに旋回できません。外翼が走ってピッチダウンしないように外翼をしっかり押さえて回しましょう。ターンの内側のブレークコードでロールを、外側のブレークコードでピッチを調整する感覚かな。

オメガ3の登場は他のメーカーにとってもかなり脅威だったようです。

富山県、らいちょうバレーでのPS大会(現在のJリーグ)はすごかった。NOVAチームはまだ開発ナンバーが取れてないX-10(後のゼノン)を投入、イーデルチームはこれまたプロトのアクキュ(結局市販されなかった...)のかなを投入し、まるでお祭り騒ぎでした。

オメガ3の本当にすごいところは、これだけの高性能でありながら、決して神経質な機体ではなく、むしろ他の高性能機などと比較しても実に取り扱いやすい機体というところ。それどころか飛んで本当に楽



飛びながらキャノピーを見上げるのが楽しかった。

しいグライダーでした。

それまでの高性能機といえば、その性能と引き換えにシビアな操縦センスを必要とするものが多い中、飛んで楽しい、そして高性能といういわば相反する二つの性能を両立したのです。

栗山公秀(くりやま公秀)

初フライトは1987年7月、それ以来パラにはまる。コンペにも参加していたが今は月1~2日程度のマンスリーフライヤー(とほほ)。ホームエリアはスカイパーク宇都宮。現在二児の父。

このシリーズは今回で終了です。ご愛読ありがとうございます。以下のサイトで、掲載した機体の他にもいろいろ紹介されています。ぜひご覧ください。

<http://www.kurry-jp.com/>

カレンダー

場は開催地、連は連絡先です。予定は変更になる場合がありますので、お出かけの際は事前に必ずご確認ください。

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
	1 元旦	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14 成人の日	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11 運動の日	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

JHF事務局の休み

12月29日から1月6日まで、事務局は業務を休みます。ご注意ください。各種申請等は、時間の余裕を持って早めをお願いします。

長崎県PG助教員検定試験

12月8日・9日 場長崎フリーフライトパラグライダースクール及講習エリア 連長崎県ハンググライディング連盟 TEL.095-844-9988

青森県HG助教員検定試験

12月22日 場青森県東津軽郡平内町夜越山スキー場 連青森県ハンググライディング連盟 TEL.090-2028-1306

第16回西富士ジャパン・クラシック(HG)

12月31日~1月3日 場静岡県富士宮市猪之頭朝霧高原西富士友の会エリア 連西富士友の会大会実行委員会 TEL.0543-63-1429

第13回丹沢スカイランプリ(HG)

1月11日~14日 場神奈川県秦野市横野地区 連丹沢スカイクラブ 丹沢スカイラン

プリア実行委員会 山本剛

TEL.044-813-0127
E-mail yamamoto@mf.0083.net
第12回佐賀市長杯・
第12回若葉杯新人戦(熱気球)

1月13日・14日 場佐賀県佐賀市 連佐賀熱気球パイロット協会 TEL.0952-29-3100
2002年ハンググライディング日本選手権

4月28日~5月4日 場山形県南陽市「南陽市スカイパーク」 *FAIカテゴリー2公認大会になる予定。参加者はFAIスポーツライセンスが必要です。忘れず取得してください。申請書はHG競技委員会のホームページからダウンロードできます。

<http://tomato.saino.ne.jp/haku/JHF-HG.html>



大会報告

第16回菅平カップ 2001年9月29日・30日 長野県須坂市 妙徳山エリア

[総合]

1位	田口 正彰	東京都	1138点
2位	横張 成信	埼玉県	989点
3位	永井 敏夫	兵庫県	982点
4位	岡本 菊夫	東京都	902点
5位	是枝 元	長野県	843点
6位	山崎 義男	愛知県	720点

初日は、天候に恵まれ弱いサーマルもあり、タスクをこなせた。2日目は曇りの中サーマルに恵まれずセットタイム&ターゲットを行った。
[記:中台章]

新人戦2001 2001年10月6日・7日 鳥取県八頭郡河原町 霊石山エリア

[総合]

1位	黒部 克典	EPO	1404点
2位	砂原 孝美	FLYDOM	1088点
3位	野尻 知里	SYLPH	1085点
4位	小澤 貴	FLYDOM	1070点
5位	佐島佳穂子	EROSPAC	964点
6位	佐野崎信也	Zephyr	947点

全国から初飛び1年以内の学生新人が集まりテイクオフ、ランディングの精度を競う新人戦が今年は霊石山エリアで開催され、総勢27名が参加した。2日間とも条件が良い中、ソアリング禁止はかわいそであったが心配していた事故、ケガがなく良かった。1日目は1本、2日目は2~3本飛ぶことができ、2日間とも成立した。1日目は風が強くて、2日目は風が弱いという条件の中で、1日目ショート、2日目ロングする選手が多かったが2日間ともターゲット内にしっかりとおろした黒部克典選手が優勝した。
[記:黒田寛祐]



新人戦に集った地方学生連盟のメンバー。お疲れさま!

2001デサントバードマンカップ獅子吼 第20回記念大会

2001年10月6日~8日
石川県石川郡鶴来町八幡町 獅子吼高原

[総合]

1位	今嶋 功	鳥取県	950.0点
2位	桂 敏之	茨城県	898.7点
3位	大門 浩二	茨城県	814.3点
4位	板垣 直樹	茨城県	794.4点
5位	高橋 元樹	千葉県	787.9点
6位	波多野康雄	兵庫県	717.5点

[女子]

1位	磯部さやか	栃木県	170.7点
2位	谷古宇瑞子	栃木県	99.1点
3位	榊原 彩子	茨城県	82.3点

今年はフライヤーの皆様のご意見のもとに、P証参加、クラス1・2混合戦、団体戦等、誰もが楽しめる大会を目指した。その結果、全国から多数の選手(94名)が集い、デサント杯(個人・団体)獲得に向け熱い戦いが繰り広げられた。大会期間中、高気圧に覆われ天候は良好であったが、北東~東のフォロー風に悩まされ結果的に初日の一本勝負となった。初日は渋いながらもコンディションの急変も無くまずまずの条件での競技となった。結果、3割の選手がゴール。7割の選手がミニマムクリア。今嶋選手が円熟の飛びで総合優勝。女子の部では新鋭磯部選手が優勝した。クラス2では藤田選手。団体戦ではスポーツオーパカイトチームが優勝を

飾った。 [記:金子外幸]

米こめカップ2001 inエアパーク三の倉高原 2001年10月13日・14日 福島県熱塩加納村 エアパーク三の倉高原

[総合]

1位	島倉浩一郎	富山県	981点
2位	藤井 秀宣	東京都	977点
3位	中田 孝弘	茨城県	972点
4位	酒井 順子	神奈川県	964点
5位	山崎 浩志	神奈川県	912点
6位	斎藤 りえ	千葉県	908点

[オープン]

1位	浦辻 吉弘	神奈川県	468点
2位	畑 裕之	神奈川県	446点
3位	松田 洋和	福島県	359点
4位	中田 義雄	千葉県	340点

エキスパート40名で、セットタイム60分+シークレットパイロン4箇所で行われ4km先のパイロンがキーポイントとなるというハイレベルな戦いになった。まずまずのコンディションの中、8名がフルパイロンで、セットタイムもかなりの僅差であった。オープンクラスは、無理をせず安全で楽しくフライトをすることが出来、紅葉の三の倉高原を空から眺めながらの大会となった。大きな事故も無く競技内容もとても充実した大会であった。
[記:昆野克昭]

第16回トオヌップハンググライダー大会 2001年10月13日・14日 岩手県遠野市 宮守村フライトエリア

北上山地の山も紅葉の見頃の季節を迎え稲刈り作業も終わりを迎えた遠野盆地をハングで駆けめぐってもらうべく計画した大会でしたが、天候に恵まれず不成立となりました。日本選手権も終わり、心機一転新世紀に新スタッフで望んだ大会だけに、たいへん残念です。エントリーして頂いた選手は、東北、関東から22名でした。

第18回あぶくま洞オープンカップ ハンググライディング大会

2001年10月20日・21日
福島県田村郡滝根町 仙台平エリア

[クラス]

1位	高橋 元樹	千葉県	1789.7点
2位	砂間 隆司	茨城県	1738.5点
3位	野呂 文人	千葉県	1367.1点
4位	佐藤 敏男	栃木県	1267.9点
5位	遠藤 英喜	岩手県	1263.0点
6位	大田 昇吾	千葉県	1159.1点

[クラス]

1位	藤田 直己	東京都	1948.3点
2位	渡辺 健	福島県	1815.0点
3位	川田孝一郎	群馬県	966.2点

今回は、天気予報が最高であり、大会中2日間にもわたり好天に恵まれ、選手に喜んでもらえたと思う。仙台平の大会も第1回(S54年)から通算22回目を開催することが出来ました。第18回大会に於いては、競技内容をパイロン間フリーディスタンスとしましたが、次に向うパイロンの指定がないため、写真撮りにセクターの考え方が無くなり、写真判定が難しいものとなりました。次回の開催に当たっては、写真判定だけではなくGPSを利用した競技内容にし、他大会とは一味違うおもしろみのある大会にしていきたいと考えています。
[記:松本圭一]

2001年知事杯争奪尾岳スカイグランプリ 2001年10月27日・28日 新潟県吉川町尾岳

[総合]

1位	山下 慎吾	茨城県	1000点
1位	児島 彰	広島県	1000点
1位	川口 竜大	愛知県	1000点
1位	只野正一郎	兵庫県	1000点
1位	大野 健治	山形県	1000点
1位	岩瀬 茂寛	愛知県	1000点

1位	伊澤 光	東京都	1000点
1位	二三四昭昭	神奈川県	1000点

[女子]

1位	和田 有加	東京都	540点
2位	佐藤 明美	石川県	407点
3位	増子 友美	東京都	321点

1日目は、天気は朝から快晴だったものの逆転層が強く、サーマルが活発になったのが12時30分頃と遅くなった。それでもその後は400~600mゲインの好条件となって10人は30km前後フライトしたが後半サーマルが弱くなりゴールは誰も出来なかった。2日目は10時頃より雨となり競技はキャンセルとなった。
[記:清 貞雄]

西日本学生ハンググライダー選手権2001 2001年11月3日・4日 山口県豊浦郡菊川町及び豊田町周辺

[総合]

1位	大田 祐輔	TAKE OFF MANIA	252.0点
1位	堀部 貴弘	TAKE OFF MANIA	252.0点
3位	加藤 晋	SKY DUST	220.5点
3位	牧野 祐一	東大FALSADA	220.5点
3位	増田 憲治	AIOLOS	220.5点
3位	永光 秀明	EPO	220.5点
3位	篠原 洋介	AIOLOS	220.5点
3位	豊田 良平	EROSPAC	220.5点
3位	松原 壮馬	EPO	220.5点

[2ND]

1位	佐藤 史宏	EPO	762.0点
2位	濱 和子	オーク	694.0点
3位	野口 和基	ゼフィール	678.0点
4位	砂原 孝美	オーク	673.0点
5位	近成 純	ゼフィール	658.0点
6位	森田 美緒	SKYDUST	620.0点

[団体]

1位	TAKE OFF MANIA	139.25点
2位	オーク	130.62点
3位	AIOLOS	130.15点
4位	EPO	130.06点
5位	ゼフィール	129.45点
6位	SKY DUST	126.40点

初日は雨のため大会不成立であった。各大学で観光を楽しんでいた。夜のレセプションでは皆のテンションも最高潮に!!

そして迎えた2日目は、朝には天気が回復し、選手は続々とT.O.へ上がる。風は強い。強風が収まるのを待つこと2時間半。風向きは北。風速5m程で安定し始め、ダミーがテイクオフ。競技可能なことが確認され、Pクラスゲートオープン。300mほどのゲインは出来るが、それ以上はサーマルが流れてしまい、雲底(約1200m)には誰も届かなかった。選手の半数がミニマムを回って上げ返しを図るがゲイン出来ず、ランディング。

結果は共に広島大学の堀部貴弘選手、大田祐輔選手がミニマム+1タスクで同立優勝を飾った。Nクラスでは日本大学の佐藤史宏選手が堂々の1位に輝いた。

一時は天候が心配されたが、事故もなく、若さ溢れる大会を行なうことが出来た。今大会を支えてくださった皆様、ご協力ありがとうございました。
[記:黒田敬子]



前列左から堀部、大田、後列左から佐藤、野口、濱、各選手。

今年は幸せ??

私は毎年、12月24日を飛び納めの日にしています。キリスト教の信者でも何でも無い人たちの浮かれたバカ騒ぎに嫌気を覚え、無駄に明るく電気代の無駄でしかないイルミネーションで飾られていない、ありのままの木を見に、私はフライトエリアへ向かうのです。そしてどういわけかその日は毎年リッジコンディションになります。そのため、同じ場所を4時間100往復ほど飛び続けているその間に、私はそっとクリスマスソングを口ずさむのです。でも、そうやって飛んでいる間に私の鼻から溢れ出る体液が、極寒地獄による鼻水だけではない事は、誰にも内緒な私だけの秘密です。

ペンネーム: 本当はサンタ信じてます

孫の代まで語り継がれるカモ??

忘れもしない2000年1月1日早朝。世の中はミレニアムだと沸きだっていた。僕は初日の出フライトをしようとT.O.にいた。20世紀最後の初日の出が頭を出そうとした時、サイドフォロワーのT.O.から1機、2機と出て行く。いよいよ僕の番。無理やり立ち上げて何とか足が浮いたその時であった。テンションが抜けツイストし、あっという間にグライダーは山のほうを向いた。次の瞬間、僕はこの千年代において、たぶん世界で最初の山沈者となった。ああ、情けない.....。

ペンネーム: M z

めでたい正月ならではの

僕の飛び初めは毎年1月1日の午前6時頃に行われます。前日のバカ騒ぎの為、ほとんど寝られずまだすこし良い気持ちの状態です。T.O.に上がりますが、あまりの寒さのために頑張って育て上げた良い気持ちは全部吹き飛ばします。そして朝日も見えない真っ暗なT.O.で、懐中電灯を使い黙々と機体を

お題はなあに?

新年を迎える今回のお題は「私の飛び納め・飛び初め」皆さん、よいお年を!

組み上げるのです。そう、全ては新年初フライト達成の榮譽のため。ウチのエリアは東向きなので、冬型気圧配置による北西風のサイドフォロワーの中、スタ沈覚悟でみな鬼走りです。T.O.します。そして誰かがスタ沈するまでT.O.し続けますが、やはり毎年出られるのは3、4人です。でもみんな少しもめげないのは、やはり正月テンションのなせるワザでしょうか。

ペンネーム: 病んでる??

もうすぐ出発です!

私は年末年始を、ホームエリア以外の土地で過ごします。冬になると飛べる確率の低くなるホームを捨てて、向かう先は、そう、九州。予報を見て飛べるエリアへ動くので、大晦日も元日も当たり前のようにソアリングし放題です。九州は食べ物も旨いし毎日飛べるし幸せなのですが、ただひとつ残念なのが経済面。これで高速道路が安ければ何も言う事ないのになどと愚痴をたれつつ私は今年も九州へ行きます。

ペンネーム: だんば飛ぶべか

次回のお題は「寒さに負けない方法」

次号発行は春の足音が聞こえてくる2月20日。でも春といってもエリアは厳寒。そこで、寒さを吹っ飛ばす方法を募集します。

このコーナーでは、お題にそった皆さんの体験談をお待ちしています。笑える話、ホロリとくる話、ビックリする話、大歓迎。200字程度の文章にして、EメールまたはFAXでお送りください。ペンネーム、氏名、住所、電話番号、Eメールアドレスも忘れずに書き添えてください。作品採用の方には、ささやかなプレゼントあり!

Eメール: koho@jhf.skysports.or.jp

FAX: 03-5840-8312

「JHFレポートお題はなあにに係」まで。

次回の締切は1月15日。文章の主旨を変えずに編集させていただくことがあります。

学連だよ! 全員集合!!

こんにちは! めっきり寒くなりましたね。フライトスーツを持っていない貧乏学生にとっては、どんな格好をして飛ぶかがかなり重大な問題であり、いい飛びをするためのポイントでもあります。今号は先日行われたPG日本選手権に、学連推薦で出場した選手に直撃インタビューしました!

* 推薦枠とは?

学連ではJHFから日選出場枠をいただいています。日選出場枠とは、HGは学生リーグ上位2名、PGは学選上位3名が日選に出場できるというものです。つまり、PGの場合8月に行われた学生選手権の1~3位には賞品と同時に日選に出場する権利が与えられたというわけです。今年のPG日選には、学選1位の高木宏寿(会津大)、3位の友澤一成(日本大)の2人を推薦しました。

PG日本選手権

成績がいまいちという理由でインタビューを嫌がる友澤さんに聞いてみました。

Q. ずばり、感想は?

A. 一番強く感じたのは、上手い人は本当に上手いということ。当たり前だけど、目のあたりにすると改めて驚くしかないね。

Q. どの辺がそんなに違うんですか?

A. まず、見ている範囲が違うね。それ気づかされたのは、2本目に成立したタスク。ゲートオープン直後に激渋となった空域を避け、彼らが待機していたのは、スタートパイロンから10kmも離れた場所だったんだ。そこにしかリフトが無いなら、距離など関係無いんだ。また、リフトを探し出す能力もすごい。飛びに迷いが無い。先の先を読んで、レースの組立てが出来てる。あと、決して諦めない精神力の強さ。これは大会が終わって成績が確定するまで何事も諦めないということ。まだまだ細かい事はたくさんあったけど、これらを踏まえて思った事は、いかに普段何も考えずに飛んでいたかだね。

Q. 日本選手権に出場して得たものは?

A. 最も大きなものは「『真の練習』が必要」だと思えた事かな。

.....友澤さんありがとうございました。さて、これを読んで、日選に参加したいと思ったあなた! PGの人は来年の学選に勝つために修行しましょう。HGの人にはなんとまだチャンスが残っているのです!

HG学生リーグ個人成績

HGは学生リーグの年間個人ランキング

によって決まります。現在の個人成績は、1位: 増田憲治(AIOLOS)、2位: 松村貴博(オーク/阪大)、3位: 加藤実(東海ANIM-ALS)、4位: 牧野祐一(東大FALSADA)、5位: 野呂文人(EROSPAC)となっています。3月上旬に神ノ倉で開催されるHG学生選手権の成績次第では、日選出場も夢ではない! がんばってください。個人成績やHG学生リーグについて詳しく知りたい人は、HG学生リーグのHPに急げ!

<http://jhf.skysports.or.jp/HG/Student/>

学連公認大会レポート

JHFレポート今号の大会報告ページにHGの新人戦と西日本学選のレポートを掲載しました。

学連への連絡は.....

「学連に加盟したい!」や「もっと詳しく学連のことを教えて欲しい」やその他学連への応援・苦情などは下記まで。

岡崎勢津子(日本大学3年)

Eメール: jsff2001@hotmail.com

学連HP <http://www.geocities.co.jp/outdoors/2273/>

/outdoors/2273/



連絡ノート
JHF
フライヤー

がかかります。もし、あなたが免許無しで電波を使用しているなら、フライヤー全体の「自由飛行」のために、今すぐ違法使用を止めてください。

スカイレジャー航空無線機の会員頒布

平成7年度から進めてきた航空無線周波数普及事業は「平成10年度郵政省お年玉付年賀はがき寄付金の配分」の助成を受け、まずJHFが免許人となって航空無線機188台を購入し、公認競技会、正会員主催行事等に貸し出す形で、宣伝普及してきました。ただいま一般フライヤーの皆さんに会員頒布品として購入して頂く準備を進めています。購入条件等は近く詳細を発表の予定です。

住所などが変わったら

JHFフライヤー会員で、住所、氏名、電話番号などが変わった方は、フライヤー会員番号・氏名を明記し、変更内容をハガキ/FAX/EメールでJHF事務局にお知らせください。

フライヤー会員証が着かない時は

3週間経っても会員証未着の場合は事務局まで。

空のかお

その41

一階朋之さん 麻衣子さん
(いっかい ともゆき まいこ)



会社の先輩に誘われてハングを始めた朋之さん、ナウシカのメーヴェに憧れ、長年の夢を叶えるために同じくハングを始めた麻衣子さん。麻衣子さんのPC購入をきっかけにご夫婦になり、11月に二人揃ってパイロット証を取得されました。ホームエリアは和歌山県の竜門山で、岡山県の大佐山などにも飛びに行かれるそう。

これからの目標は、二人揃ってダブルを乗りこなすこと。そして、海外で飛ぶことだそうです。これからも二人仲良く頑張ってください！趣味と家庭、両方手に入れるなんてうらやましい限りですね、みなさん！

事務局の年末年始休業

JHF事務局は12月29日から1月6日まで業務を休みます。各種申請など時間の余裕を持ってお願いします。7日からは通常業務に戻ります。

電波は規則を守って使いましょう！

最近また、当スポーツの関係者と見られる方々の電波の違法使用による苦情が寄せられています。電波は国民の共有財産です。免許を取得し、正しい使用目的で、マナーを守った使用をお願いします。JHFでも「スカイレジャー航空無線周波数」利用促進等、事業として進めていますが、時間

10月・11月のパイロット証取得者

(敬称略 数字は認定日)

パラグライディング

- 10/2 石橋 雅之
- 10/2 森崎 勝弘
- 10/2 奥平 譲
- 10/2 青木 守
- 10/2 加藤奈保子
- 10/3 東 清義
- 10/3 山里 洋子
- 10/3 小林 達夫
- 10/3 小倉 久幸
- 10/3 大溝 幸光
- 10/3 二階堂敏夫
- 10/3 木村住代子
- 10/3 平林 美佳
- 10/3 佐々木幹郎
- 10/4 竹内 徹
- 10/4 福島 芳朗
- 10/10 梅田三奈子
- 10/10 高橋 正人
- 10/10 松本由美子
- 10/11 島田 善夫
- 10/11 伊藤 文夫
- 10/11 植松 孝行
- 10/11 渋谷 和俊
- 10/11 中村慎二郎
- 10/11 寺尾 有貴
- 10/16 秦 孝一
- 10/17 阿久津喜好
- 10/17 坂井 隆夫
- 10/17 袴田 喜一
- 10/17 外立 信治
- 10/17 原 英畧

- 10/18 大垣 正雄
- 10/18 池山 有子
- 10/18 藤原 徹
- 10/18 近藤紀久子
- 10/18 笠井 陽子
- 10/18 八島 基
- 10/18 坂尾 武志
- 10/18 手塚 悟
- 10/18 榎橋謙太郎
- 10/18 加藤 綾子
- 10/22 畑中健太郎
- 10/22 桑原 秀二
- 10/22 山本 武浩
- 10/22 蓮田 昭治
- 10/22 高橋 敦
- 10/22 北江 裕
- 10/23 渡辺 久信
- 10/23 吉川 祐治
- 10/23 桜井 大朗
- 10/23 平間ひとみ
- 10/23 石野笑美子
- 10/23 山内 克己
- 10/23 高橋 政宏
- 10/23 関根 芳明
- 10/23 坂倉 悟
- 10/24 畑中 正美
- 10/24 高屋敷和男
- 10/24 立柳 敦
- 10/24 佐々木忠男
- 10/24 佐藤 栄剛
- 10/25 坪倉 慶子

- 10/25 岩井日出美
- 10/25 石井 修
- 10/25 三浦 征裕
- 10/25 松島 圭一
- 10/26 田中 利勝
- 10/26 山本 伸也
- 10/30 岡崎 孝弘
- 10/31 村瀬 永治
- 10/31 櫻台 正
- 10/31 永井 大介
- 10/31 石川 夏男
- 10/31 竹田 勇
- 10/31 今井 洋一
- 11/1 吉永 玲子
- 11/1 齋藤 樹弘
- 11/1 杉藤 洋子
- 11/1 杉本 賢治
- 11/1 姉崎 忠吉
- 11/1 鍛冶岡 誠
- 11/1 関川 明
- 11/1 平井 隆之
- 11/2 本谷 紀昭
- 11/2 遠藤亜紀子
- 11/2 奥谷 敏尚
- 11/2 上仲 和子
- 11/2 五十嵐基郎
- 11/2 内田 周明
- 11/5 中田 拓夫
- 11/6 堀江 正己
- 11/6 永岡 建紀
- 11/6 白沢 伸行

- 11/6 西村 延洋
- 11/6 李 鐘植
- 11/9 吉岡 良樹
- 11/9 穴戸 正一
- 11/9 山本 強
- 11/13 藤沼 恵子
- 11/13 馬場 淳一
- 11/13 金子 陽子
- 11/13 菊池 正雄
- 11/13 西澤 純子
- 11/13 高橋 哲生
- 11/13 磯野 妙子
- 11/13 永喜多 龍彦
- 11/13 五箇 徹
- 11/13 小沢沢雪男
- 11/13 宮本 昇
- 11/13 西村 増恵
- 11/13 猪飼 宏
- 11/13 松永 圭晃
- 11/13 深瀬 利剛
- 11/15 金崎崎次良
- 11/15 高橋 忍
- 11/15 佐古 健一
- 11/15 長谷川 隆
- 11/19 谷口 哲朗
- 11/19 小竹 里枝
- 11/19 福田 優
- 11/19 中本 紀子
- 11/19 向井 康裕
- 11/19 平田 順也
- 11/19 尾美みのり

- 11/19 小林 一郎
- 11/19 福美 義彦
- 11/20 常田 孝和
- 11/20 長塚 順一
- 11/22 清野 昌宏
- 11/22 中村 正春
- 11/22 石塚 暁子
- 11/22 三木 恵
- 11/22 露木 淳
- 11/22 岡林 俊輔
- 11/22 竹内 秀嘉
- 11/26 松浦 伸
- 11/26 野呂 忠司
- 11/26 西村 朗也
- 11/27 鍛冶由香里
- 11/27 上原美智男
- 11/27 寺本 和代
- 11/27 藤原 幸生
- 11/28 伊禮 賢美
- 11/28 福島 克行
- 11/29 寺西 春男

ハンググライディング

- 10/3 岡本 典子
- 10/11 豊田 良平
- 10/18 山田 雅彦
- 10/18 高橋 肇
- 10/22 伊藤 宙陸
- 11/2 橋本 和博
- 11/2 一階 朋之
- 11/2 一階麻衣子
- 11/22 新田 勉

JHF登録スクール 新規登録&変更

新規 No.101

クラウドベース(HG&PG)
〒742-0301 山口県玖珂郡周東町大字祖生6318-3
TEL.0827-84-5333 FAX.0827-85-0568 <http://www.cloudbasenet.com>

訂正 No.43

宮崎スカイスports 前号でお知らせしたホームページURLが間違っていました。スクールやフライヤーの皆さんにお詫びし、訂正します。
正しいURL.....<http://ww61.tiki.ne.jp/m-skysports/>

11月30日までのフライヤー会員登録数

登録年数	9月31日現在の有効登録数	10月の登録数	11月の登録数	11月30日現在の有効登録数
1年		1,010	550	
3年		524	306	
合計	15,946	1,534	856	17,023

10月・11月の技能証発行数

技能証種類	ハンググライディング			技能証種類	パラグライディング		
	10月の発行数	11月の発行数	11月30日までの発行数累計		10月の発行数	11月の発行数	11月30日までの発行数累計
P証	5(1)	4(1)	4,961	P証	75(14)	70(17)	19,525
C証	5(0)	8(1)	6,973	NP証	108(31)	88(25)	10,338
B証	26(6)	24(4)	11,654	B証	166(40)	118(38)	41,879
A証	25(6)	31(7)	12,085	A証	260(74)	197(67)	46,310
補助動力証	0	0	129	補助動力証	2(0)	2(0)	933
XC証	2(0)	2(0)	1,158	補助動力NP証	0	0	66
タンデム証	0	0	38	補助動力B証	0	0	133
				補助動力A証	0	0	162
				XC証	18(2)	25(3)	3,978
				タンデム証	28(0)	31(0)	586

*()内の数字は発行数中の女性の人数です。

編集を終えて

21世紀最初の年もいよいよ暮れる。無差別テロ、新たな戦争、一向に上向かない経済.....どえらいシंक帯にはまったような新世紀の幕開けだった。2002年こそフライヤーの皆さんにとって幸多い年になりますように。 JHF広報出版局

JHFホームページもご覧ください。
<http://jhf.skysports.or.jp/>

JHFレポート1・2月号(No.169)

発行日 2001年12月20日 定価10円
発行 (社)日本ハンググライディング連盟
〒112-0003 東京都文京区春日2-24-11
春日Shimaビル8階
TEL.03-5840-8311 FAX.03-5840-8312

E-mail : jhf@skysports.or.jp
編集 JHF企画部広報出版局
印刷 日本印刷(株)

この印刷物は再生紙を使用しています。